

社会技術研究開発事業
令和5年度研究開発実施報告書

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への
包括的実践研究開発プログラム

「 『胎児 - 妊婦コンプレックス』 への治療介入技術臨床
研究開発に係るELSI 」

松井 健志

（国立研究開発法人国立がん研究センター
がん対策研究所 生命倫理・医事法研究部長）

目次

1. 研究開発プロジェクト名.....	2
2. 研究開発実施の具体的内容.....	2
2 - 1. プロジェクトの達成目標.....	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	2
2 - 3. 会議等の活動.....	6
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況.....	7
4. 研究開発実施体制.....	8
5. 研究開発実施者.....	9
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	12
6 - 1. シンポジウム等.....	12
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	13
6 - 3. 論文発表.....	13
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	14
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等.....	15
6 - 6. 知財出願（出願件数のみ公開）.....	15

1. 研究開発プロジェクト名

「胎児-妊婦コンプレックス」への治療介入技術臨床研究開発に係るELSI

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. プロジェクトの達成目標

少産少子化と母体高齢化の中で、先天異常・疾患を有する児の発生割合が高くなってきている現代において、近年、まだ技術数は少ないものの、「胎児」の段階から治療介入を可能とする技術（胎児治療介入技術）の臨床研究開発が確実に進みつつある。しかし、そうした臨床研究開発における被験者、すなわち、正確には未だ「人」ではないため「研究対象存在」と呼ぶべき「胎児」とその胎児と不可分かつ時に医学的に利益相反の状態にある「妊婦」（「胎児-妊婦コンプレックス」）の双方を、適切に保護しながら臨床研究開発を進めるための倫理的な枠組みや提言・指針等の検討は、世界的に見ても欠けており、現在の医学領域での研究倫理学において焦眉の課題となっている。本プロジェクトでは、こうした胎児治療技術の臨床研究開発における「胎児」及び「胎児-妊婦コンプレックス」の保護上の課題や在り方、胎児治療技術の発展がもたらし得る将来の社会への影響、及び、その臨床研究開発に求められる新たな倫理的枠組みの在り方等について、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）及び責任ある研究・開発（RRI）の観点から総合的に分析・検討を行い、胎児治療介入技術の臨床研究開発の倫理的に適切な在り方を構築・提示することを目標とする。

2-2. 実施内容・結果

（1）スケジュール

研究実施項目	2022年度 (6ヵ月)	2023年度 (12ヵ月)	2024年度 (12ヵ月)	2025年度 (12ヵ月)
1. 胎児治療に係る治療介入技術の特質に伴う倫理的懸念の抽出・整理				
・胎児治療に係る治療介入技術の特質の整理（技術的課題検討G, 妊婦・女性性課題検討G）	←	←	←	←
・見出された特質に伴う倫理的懸念の検討（技術的課題検討G, 妊婦・女性性課題検討G, 統括・ELSI/RRI総合分析G）	←	←	←	←
2. 研究対象存在としての「胎児」に係る法的課題の検討				
・「胎児」に係る法的課題の検討（法的課題検討G）	←	←	←	←
・「ヒト受精胚」の場合の法的差異の検討（法的課題検討G, 統括・ELSI/RRI総合分析G）	←	←	←	←

3. 「胎児—妊婦コンプレックス」への治療介入技術における妊婦・女性性課題の抽出・整理				
・妊婦・女性性課題の抽出・整理（妊婦・女性性課題検討G，技術的課題検討G，統括・ELSI/RRI総合分析G）				←—————→
4. 胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSIの総合分析				
・ELSI/RRIの総合分析ととりまとめ（統括・ELSI/RRI総合分析G）				←—————→
・臨床開発・研究の倫理的在り方に関する提言・指針・現場還元等の検討（統括・ELSI/RRI総合分析G，技術的課題検討G，法的課題検討G，妊婦・女性性課題検討G）				←—————→

(2) 各実施内容

実施項目1：胎児治療に係る治療介入技術の特質に伴う倫理的懸念の抽出・整理

実施内容：技術的課題検討グループ（以下、技術的課題検討G）を中心として、5回にわたるグループ検討会（以下、G検討会）を開催して、胎児治療介入技術の具体例の中から、内科的介入としてすでに行われているもの（胎児不整脈に対する薬物投与；エプスタイン病による胎児水腫に対するプロスタグランジン投与）、外科的介入としてすでに行われているもの（脊髄髄膜瘤に対する胎児手術；双胎間輸血症候群に対するレーザー手術）、将来的に実現が目指されているもの（人工子宮技術；ミトコンドリア病の受精胚に対するミトコンドリア置換）を取り上げて、それぞれのELSI/RRI上の論点についての検討を進める小チーム（1～2名）を構成して、検討内容の報告と議論を進めた。

実施体制：技術的課題検討G、妊婦・女性性課題検討グループ（以下、妊婦・女性性課題検討G）、統括・ELSI/RRI総合分析グループ（以下、統括・ELSI/RRI総合分析G）

期 間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

実施項目2：研究対象存在としての「胎児」に係る法的課題の検討

実施内容：法的課題検討Gが中心となり、4回にわたるG検討会を開催して、胎児治療研究の法的課題を考えるうえでの基礎となる裁判例（例. 生殖補助医療でのヒト受精胚・配偶子をめぐる権利・親子関係等をめぐる法的論争事案・判例；胎児や分娩・出生の民法・刑法上の扱い及びそれらをめぐる法的論争事案・判例）を中心に振り返り、論点整理及び胎児治療の問題に影響を与える事項について議論を進めた。

実施体制：法的課題検討G、統括・ELSI/RRI総合分析G

期 間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

実施項目3：「胎児—妊婦コンプレックス」への治療介入技術における妊婦・女性性課

題の抽出・整理

実施内容：妊婦・女性性課題検討Gが中心となり、3回にわたるG検討会を開催して、妊婦・女性の自律性の問題を中心に、胎児治療における妊婦・女性をめぐるELSIにも関連すると思われる周辺テーマについて論じた文献を読み進める作業を行った。

実施体制：妊婦・女性性課題検討G、技術的課題検討G、統括・ELSI/RRI総合分析G

期 間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

実施項目4：胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSI/RRIの総合分析

実施内容：統括・ELSI/RRI総合分析Gが中心となり、他の3つのグループ間での日程調整等を行うとともに、本プロジェクトの全体的な進捗の管理を行った。また、本プロジェクトで雇用する若手研究員を軸に、本プロジェクトで取り組む研究の内容についてプロジェクト実施者・協力者による国内外の学会での研究発表を積極的に進めた。さらに、当グループが中心となって、国内の胎児治療・臨床研究を実施する専門家との交流を図り、当該専門家による講演の開催（R6年度初頭に予定）についてセッティングを行った。また、本プロジェクトが提唱する「胎児-妊婦コンプレックス」概念の内実についての検討を行った。

実施体制：統括・ELSI/RRI総合分析G、技術的課題検討G、法的課題検討G、妊婦・女性性課題検討G

期 間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

（3）成果

実施項目1：胎児治療に係る治療介入技術の特質に伴う倫理的懸念の抽出・整理

成 果：技術的課題検討G内で5回の研究会を行い、それらを通じて課題の遂行に努めた。その成果は、プロジェクト実施者および協力者によって、論文および国内学会での口頭発表などの形で公表した。これら成果は6. に示した通りである。特に本年度は、技術検討課題G内でさらに論文作成のためのワーキングチームを作り、双胎間輸血症候群や脊髄髄膜瘤など、個別の胎児治療およびその研究に関わるELSIについて課題を整理し、検討を行った。本年度に行った検討の成果は、次年度以降の論文化に繋げていくことを目指しているが、それだけにとどまらず、個別の事案から帰納法的に胎児治療・研究全体のELSIに関する考察へとつなげていくための筋道についても明らかになりつつある。

実施項目2：研究対象存在としての「胎児」に係る法的課題の検討

成 果：プロジェクト実施者による国内外の学会での研究発表を積極的におこない、6. に示す通り、国内学会での本プロジェクト内容をテーマとするシンポジウムにて成果を報告した。また、国際学会において胎児の法的地位に関する口頭報告を行った他、これらの学会報告の内容は、国内誌論文1件（邦文および英文）として刊行された。これらの発表および論文刊行を通じて、胎児治療介入技術の臨床開発・研究が倫理的に適切に行われる前提としての法的枠組についてかなり明確にな

るとともに、今後、法的課題検討Gにおいて何を検討すべきかについても明らかとなった。

実施項目3：「胎児-妊婦コンプレックス」への治療介入技術における妊婦・女性性課題の抽出・整理

成 果：プロジェクト実施者による国内学会での研究発表を積極的におこない、6.に示す通り、国内学会での本プロジェクト内容をテーマとするシンポジウムにて成果を報告するなどした。今年度中に口頭発表での公開に至った研究は、医療研究資源分配のELSIにおける胎児治療研究の位置づけ、胎児治療研究における妊婦の地位に関するものである。それらと同時に来年度以降に投稿を予定する研究論文執筆のための調査・考察を実施した。具体的には、胎児治療研究におけるリスク・ベネフィットの均衡と、妊婦の研究参加をめぐる論点を明確化することができた。

実施項目4：胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSI/RRIの総合分析

成 果：プロジェクト実施者・協力者による国内外の学会での研究発表を積極的に進めて、6.に示す通り、国内学会での本プロジェクト内容をテーマとするシンポジウム1件の開催を始め、国内学会での口頭発表4件、ポスター発表1件、国際学会での口頭発表2件の成果を挙げた。また、人工子宮技術の倫理性を論じた国際誌論文1件、及び胎児治療や人工子宮技術の臨床研究開発における法的課題を論じた法学論文1件（邦文・英文）の発表も行った。さらに、上記学会での筆頭者としての発表を促して、若手研究者の育成を図った。これらの発表を通じて、胎児治療介入技術の臨床開発・研究においてどのような倫理的・法的課題があるのか／ないのか、あるとした場合に各技術の間で質的に異なる特有の倫理的・法的課題があるのか／ないのか、何について今後更に検討を深めていく必要があるか、といった事柄が、研究開始当初の漠然とした状態から少しずつ明確になりつつある。

（4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクト2年目となる今年度は、法的課題検討G、技術的課題検討G、妊婦・女性性課題検討Gそれぞれにおいて、各担当課題の検討を進めることに注力した。各グループでの課題検討は順調に進捗しており、当初の予定通りに進んでいる。

今年度は元々、論点や課題の広がりあまり制限することなく一旦は幅広く、班員個々の興味・関心事を中心に検討を進める方針で臨んだこともあって、現時点ではまだかなり遠い将来の胎児治療技術の話となるような問題も含めて、検討の範囲は一定の広がりをもったものとなった。しかし、統括・ELSI/RRI総合分析Gのリーダー・サブリーダーを含めた主たるプロジェクト実施者の多くが、各グループでの検討会のほぼすべてに横断的に参画していることもあって、スコープが過度に分散することなく検討が進められているものと考えている。一方で、胎児治療介入技術の臨床研究・開発に係るELSI/RRIとして検討すべき論点・課題は多岐にわたること、また、それら論点・課題の一つ一つが慎重な分析を必要とするものであることが次第に明らかとなってきており、あと残り2年間でそれらすべてについて論文化することは困難であると思われる。そのため、どの論点・課題を優先的に論文化して

いくのかについては、次年度の早い段階で本プロジェクト内で意見を集約していく必要があるだろう。

2 - 3. 会議等の活動

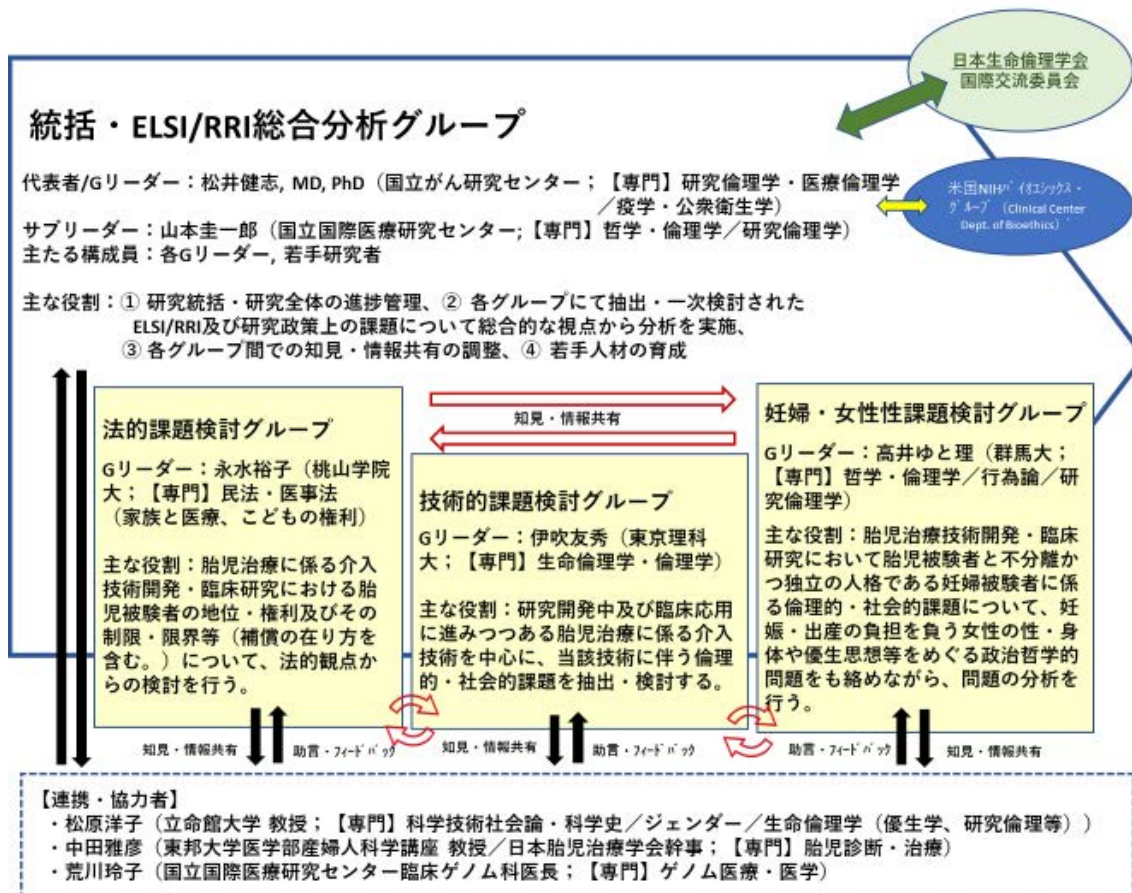
年月日	名称	場所	概要
2023年 4月10日	RISTEX松井PJ R5年度第1回全体班会議	オンライン	・R5年度の全体的な進め方（各Gの進め方を含む）の検討
2023年 5月6日	法的課題検討G 第3回研究会	オンライン	・ヒト受精卵・配偶子に関する権利：「同意」をめぐる諸問題
2023年 5月9日	妊婦・女性性課題 検討G第3回研究会	オンライン	・研究参加リスクとは ・胎児治療における妊婦の自律
2023年 5月11日	技術的課題検討 G第3回研究会	ハイブリッド （東京理科大学 神楽坂キャンパス）	・本Gの今後の進め方の検討 ・本Gで取り上げるべき胎児治療介入技術の検討・整理 ・ワーキンググループの編成
2023年 6月14日	妊婦・女性性課題 検討G第4回研究会	オンライン	・人口動態統計／大阪母子保健の中の胎児治療
2023年 7月13日	技術的課題検討 G第4回研究会	ハイブリッド （東京理科大学 神楽坂キャンパス）	・Fetotateに対する人工子宮技術（AWT）に関する倫理的検討（文献抄読・討議）
2023年 7月13日	法的課題検討G 第4回研究会	オンライン	・胎児治療研究における胎児と母体の法的保護
2023年 8月29日	妊婦・女性性課題 検討G第5回研究会	オンライン	・maternal-fetal surgeryの倫理的課題（文献抄読・討議）
2023年 10月4日	法的課題検討G 第5回研究会	オンライン	・分娩方法の選択とそれに対する医師の注意義務の判断：大阪地裁令和2年3月13日判決（判タ1490号239頁ほか）を題材に
2023年 10月5日	技術的課題検討 G第5回研究会	ハイブリッド （東京理科大学 神楽坂キャンパス）	・胎児不整脈に対する薬物療法（の開発研究）における同意の問題について ・胎児治療研究における胎児と妊婦女性の概念分析：ペルソナとし

			ての母子関係
2023年 12月27日	技術的課題検討 G第6回研究会	ハイブリッド (東京理科大学 神楽坂キャンパス)	・一絨毛膜双胎の研究倫理（文献抄読・討議）
2024年 2月29日	法的課題検討G 第6回研究会	オンライン	・刑法上の法益主体・行為客体・保護客体としての胎児
2024年 3月19日	RISTEX松井PJ R5年度第2回全体 班会議	オンライン	・R5年度の各G検討の進捗報告 ・R6年度の進め方
2024年 3月28日	技術的課題検討 G第7回研究会	ハイブリッド (東京理科大学 神楽坂キャンパス)	・脊髄髄膜瘤における胎児治療研究のELSI（議論整理・討議） ・胎児治療に係る倫理的課題に関する聞き取り調査及びアンケート調査について

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

該当なし

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

法的課題検討グループ (リーダー氏名: 永水裕子)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
永水 裕子	ナガミズ ユ ウコ	桃山学院大学	法学部	教授
遠矢 和希	トオヤ ワキ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	主任研究員
中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員
井上 悠輔	イノウエ ユ ウスケ	東京大学	医科学研究所 ヒトゲノム解 析センター	准教授
佐藤 雄一郎	サトウ ユウ イチロウ	東京学芸大学	教育学部 (社 会科学講座法 学・政治学分 野)	准教授
原田 香菜	ハラダ カナ	早稲田大学	法学学術院・ 法学部	講師
和泉澤 千恵	イズミサワ チエ	北九州市立大学	法学部	准教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

技術的課題検討グループ (リーダー氏名: 伊吹友秀)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
伊吹 友秀	イブキ トモ ヒデ	東京理科大学	教養教育研究 院野田キャン パス教養部	准教授

高野 忠夫	タカノ タダ オ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タ ダシ	東北大学	大学病院	特任講師
三好 剛一	ミヨシ タケ カズ	国立研究開発法人 国立成育医療研究 センター	臨床研究セン ター	研究員
鈴木 将平	スズキ ショ ウヘイ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	特任研究員
中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員
高島 響子	タカシマ キ ョウコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	室長
高井 ゆと里	タカイ ユト リ	群馬大学	情報学部	准教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

妊婦・女性性課題検討グループ（リーダー氏名：高井ゆと里）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
高井 ゆと里	タカイ ユト リ	群馬大学	情報学部	准教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
高島 響子	タカシマ キ ョウコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	室長

高野 忠夫	タカノ タダ オ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タ ダシ	東北大学	大学病院	特任講師
三好 剛一	ミヨシ タケ カズ	国立研究開発法人 国立成育医療研究 センター	臨床研究セン ター	研究員
遠矢 和希	トオヤ ワキ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	主任研究員
中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

統括・ELSI/RRI総合分析グループ（リーダー氏名：松井健志）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
松井 健志	マツイ ケンジ	国立研究開発法人国 立がん研究センター	がん対策研究所生 命倫理・医事法研 究部	部長
山本 圭一郎	ヤマモト ケイ イチロウ	国立研究開発法人国 立国際医療研究セン ター	臨床研究センター 臨床研究統括部	部長
永水 裕子	ナガミズ ユウ コ	桃山学院大学	法学部	教授
高井 ゆと里	タカイ ユトリ	群馬大学	情報学部	准教授
伊吹 友秀	イブキ トモヒ デ	東京理科大学	教養教育研究院野 田キャンパス教養 部	准教授
高島 響子	タカシマ キョ ウコ	国立研究開発法人国 立国際医療研究セン ター	臨床研究センター 臨床研究統括部生 命倫理研究室	室長
井上 悠輔	イノウエ ユウ スケ	東京大学	医科学研究所ヒト ゲノム解析センタ ー	准教授

佐藤 雄一郎	サトウ ユウイ チロウ	東京学芸大学	教育学部（社会科学講座法学・政治学分野）	准教授
原田 香菜	ハラダ カナ	早稲田大学	法学学術院・法学部	講師
和泉澤 千恵	イズミサワ チエ	北九州市立大学	法学部	准教授
三好 剛一	ミヨシ タケカズ	国立研究開発法人国立成育医療研究センター	臨床研究センター	研究員
高野 忠夫	タカノ タダオ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タダシ	東北大学	大学病院	特任講師
鈴木 将平	スズキ ショウヘイ	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	臨床研究センター 臨床研究統括部生命倫理研究室	特任研究員
中川 萌子	ナカガワ ホウコ	国立研究開発法人国立がん研究センター	がん対策研究所生命倫理・医事法研究部	特任研究員

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023年12月10日	第35回日本生命倫理学会年次大会公募シンポジウムB2-4 医学研究の中の胎児-妊婦をめぐるELSI：新しいフレームワークの構築に向けて	松井健志，山本圭一郎	明治学院大学2号館3階2302教室（B会場）	不明（多数）	<p>・これまでの研究倫理学の中で確立された被験者保護の枠組みの多くは、胎児治療に係る臨床開発・研究ならではのと思われる倫理的・法的・社会的課題についての的確に捉え、解を見出すことができないでいる。そこで、本シンポジウムでは、胎児治療に係る臨床開発・研究の中に置かれた胎児と妊婦の双方を適切に保護しつつ研究を進めていくために必要な、研究倫理の新たな枠組みの在り方・形について多様な観点から、日本生命倫理学会会員らも交えながら、議論を行った。</p> <p>【発表者・演題】 ・松井健志. 本シンポジウムの背景・問題意識.</p>

					<ul style="list-style-type: none"> ・ 三好剛一. 日本における胎児治療の動向. ・ 伊吹友秀. 胎児治療研究と“被験者としての胎児”. ・ 永水裕子. 胎児治療をめぐる法的課題. ・ 高井ゆと里. 母体-胎児治療研究-その倫理が位置づく文脈. <p>【指定発言者・演題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松原洋子. 被験者保護倫理のアノマリーとしての「胎児-妊婦コンプレックス」. ・ 鈴木将平. 母体と胎児の人格（Personhood）に着目して.
--	--	--	--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ 該当なし

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ 「胎児-妊婦コンプレックス」への治療介入技術臨床研究開発に係るELSI、
<https://sites.google.com/view/elsi-on-fetalmaternalcomplex/>ホーム、2023年9月4日

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 該当なし

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 1 件）

●国内誌（ 0 件）

- ・ 該当なし

●国際誌（ 1 件）

- ・ **Takashima K, Ibuki T, Yamamoto K**. Is the mother’s decision to opt for artificial womb technology always “supererogatory”? *The American Journal of Bioethics*, 2023 May; 23(5): 119-121. DOI:
<https://doi.org/10.1080/15265161.2023.2191038>

(2) 査読なし（ 1 件）

- ・ **永水裕子**. 胎児の法的地位の再考-胎児治療や人工子宮の開発を契機として. 桃山法学, 2024; 40: 25-48. http://purl.org/coar/resource_type/c_6501 (英語版 : **Nagamizu Y**. Legal protections of the fetus and the mother in the context of the development of fetal therapy in Japan. *St. Andrew’s University Law*

Review, 2024; 40: 49-60. http://purl.org/coar/resource_type/c_6501)

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

・該当なし

(2) 口頭発表（国内会議 7 件、国際会議 2 件）

- ・ **Nagamizu Y**（桃山学院大学）. Legal protections of the fetus and the mother in the context of the development of fetal therapy. The 27th World Congress for Medical Law, Vilnius, Lithuania, 2 Aug 2023
- ・ **Nakagawa H**（国立がん研究センター）, **Matsui K**（国立がん研究センター）. The issue of consent in fetal-maternal research for fetal therapy. Kyoto Conference on Bridging Science and Ethics 2023, Kyoto University, Kyoto, 16 Sep 2023
- ・ **松井健志**（国立がん研究センター）, **伊吹友秀**（東京理科大学）, **永水裕子**（桃山学院大学）, **高野忠夫**（東北大学病院）, **高井ゆと里**（群馬大学）, **中田雅彦**（東邦大学）, **山本圭一郎**（国立国際医療研究センター）. 胎児治療研究における倫理的・法的・社会的課題の所在. 第45回日本母体胎児医学会学術集会, 大田区産業プラザ, 東京, 2023年10月15日
- ・ **中川萌子**（国立がん研究センター）, **三好剛一**（国立成育医療研究センター）, **松井健志**（国立がん研究センター）. 胎児不整脈に対する薬物療法の開発研究における同意の問題, 第45回日本母体胎児医学会学術集会, 大田区産業プラザ, 東京, 2023年10月15日
- ・ **鈴木将平**（国立国際医療研究センター）, **高島響子**（国立国際医療研究センター）, **山本圭一郎**（国立国際医療研究センター）, **松井健志**（国立がん研究センター）. ペルソナとしての母子関係：胎児治療研究における胎児と妊婦女性の概念分析. 第45回日本母体胎児医学会学術集会, 東京, 2023年10月15日
- ・ **高井ゆと里**（群馬大学）. 研究資源分配の正義と不正義. 第42回医学哲学倫理学会, 上智大学, 東京, 2023年10月15日
- ・ **中川萌子**（国立がん研究センター）, **松井健志**（国立がん研究センター）. 胎児-妊婦研究における同意の問題. 第35回日本生命倫理学会年次大会, 明治学院大学, 東京, 2023年12月10日
- ・ **三好剛一**（国立成育医療研究センター）. 胎児頻脈の治療. 日本胎児心臓病学会 第8回レベルII胎児心エコー講習会, Web, 2023年12月17日（口演）
- ・ **三好剛一**（国立成育医療研究センター）. JSFC胎児心疾患レジストリの紹介. 第3回日本産婦人科超音波研究会, オービックホール, 大阪, 2024年3月16日（口演）

(3) ポスター発表（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

- ・ **荒川玲子**（国立国際医療研究センター）, **高野梢**（国立国際医療研究センター）, **高島響子**（国立国際医療研究センター）, **鈴木将平**（国立国際医療研究センター）, **三好剛一**（国立成育医療研究センター）, **高野忠夫**（東北大学病院）, **中田雅彦**（東邦大

学），山本圭一郎（国立国際医療研究センター），松井健志（国立がん研究センター）．脊髄性筋萎縮症に対する胎内での遺伝学的検査・治療研究に関する倫理的論点の整理．第46回日本遺伝小児学会学術集会，沖縄県男女共同参画センター「ていりる」，沖縄，2023年12月8日

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（ 0 件）

・該当なし

(2) 受賞（ 0 件）

・該当なし

(3) その他（ 1 件）

・非公開

6-6. 知財出願（出願件数のみ公開）

(1) 国内出願（ 0 件）

・該当なし

(2) 海外出願（ 0 件）

・該当なし